

令和9年度 科目選択資料集

数学

科目名

数学Ⅱ

履修条件

数学Ⅰを履修していること

単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
4	2,3	2	

紹介

数学Ⅰで学習した内容を基礎として、「三角関数」「指数関数と対数関数」のような新しい関数や、「微分法と積分法」のような新しい概念・原理について学ぶ。その意味では高校数学の中核となる科目である。

数学Ⅰや数学Aより難易度が上がるため、数学に前向きに取り組めることが望ましい。

履修上の注意

3年次に数学Ⅲを履修するには、2年次で数学Ⅱを履修することが必要である。また、数学Ⅲを履修する予定の場合は2年次で数学Bも併せて履修した方がよい。

科目名

数学Ⅲ

履修条件

数学Ⅱを履修していること

単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
4	3	-	

紹介

関数、極限、微分法、積分法について学びます。

数学Ⅰ、数学Ⅱを基礎とする内容です。どの単元でもかなりの計算力を必要とします。

微分法、積分法では三角関数（sin、cos、tan）、指数関数、対数関数を微分、積分します。

履修上の注意

- ・数学ⅠAⅡの内容を理解している前提で授業をします。
- ・内容の特性上、数学Cと同時に履修することを強く勧めます。
- ・大学、専門学校で理系に進学する生徒は履修を勧めます。
- ・大学受験を見据えた授業を行うので難易度は高いと思います。

科目名			
数学 A			
履修条件			
Ⅰ 年次個別支援対象者のみ			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	2,3	-	
紹介			
Ⅰ 年次で【日本語 A】を学習した人が対象の 2 年次必修履修科目です。			
履修上の注意			
特になし。			

科目名			
数学 B			
履修条件			
数学Ⅰを履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	2,3	2	
紹介			
数学Ⅰ、数学 A で学習した内容を基礎として、確率に関わりのある「統計的な推測」や数の並びについて考察する「数列」について学びます。 数学Ⅰ・A より難易度が上がるため数学に前向きに取り組めることが望ましい。			
履修上の注意			
内容の特性上、数学Ⅱと同時に履修することを強く勧めます。			

科目名			
数学 C			
履修条件			
数学 I を履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	3	-	
紹介			
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面、数学的な表現の工夫について学びます。 高校数学の最高峰となる科目です。大きさや向きについて深く考えるベクトルや複素数平面という新たな平面など新しい概念について粘り強く考える力を必要とします。			
履修上の注意			
・数学 I の内容を理解している前提で授業をします。 ・大学、専門学校で理系に進学する生徒は履修を勧めます。 ・大学受験を見据えた授業を行うので難易度は高いと思います。			

科目名			
数学 I 理解			
履修条件			
数学 I を履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	2,3	3	
紹介			
講座レベルは<★☆☆☆☆>です。※数学 I のレベルは<★★☆☆☆> 数学 I の基礎内容について学習し、高校数学の基礎を固める科目です。 本講座の目標は、数学 I の基礎的な知識・技能を高め、問題を深く理解することです。 基本問題の演習を中心に、計算力等のレベルアップを目指し、問題演習をします。 数学 I を理解したい生徒、学び直したい生徒におすすめです。			
履修上の注意			
特になし。			

科目名			
数学 A 理解			
履修条件			
数学Aを履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	2,3	3	
紹介			
講座レベルは＜☆☆☆☆＞です。※数学Aのレベルは＜★★☆☆＞ 数学Aの基礎内容について学習し、高校数学の基礎を固める科目です。 本講座の目標は、数学Aの基礎的な知識・技能を高め、問題を深く理解することです。 基本問題の演習を中心に、計算力等のレベルアップを目指し、問題演習をします。 数学Aを理解したい生徒、学び直したい生徒におすすめです。			
履修上の注意			
特になし。			

科目名			
数学発展			
履修条件			
数学 A、数学 II、数学 B を履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	3	-	
紹介			
数学 I、数学 II、数学 A、数学 B で学んだことについて、発展的な問題演習が中心です。 理系大学進学への基盤となる科目です。			
履修上の注意			
・数学 I、数学 II、数学 A、数学 B で使用した教科書、問題集をそのまま使用することがあります。なくさずに持っていてください。 ・数学 I A II B の内容を理解している前提で授業をします。			

科目名			
実用数学			
履修条件			
数学Ⅰ、数学Aを履修していること			
単位数	対象年次	年次優先枠	(参考) 前年度教材費
2	3	-	
紹介			
講座レベルは＜★★★☆☆＞です。※数学ⅠAのレベルは＜★★☆☆☆＞ 就職試験（筆記試験）に向けた問題演習が中心です。			
履修上の注意			
・ 数学Ⅰ、数学Aの範囲を中心に就職試験に向けた問題演習を行います。損益算や濃度・速さの問題などのテクニックを要する文章題も扱います。 ・ SPIを意識した問題演習も行います。			